

令8 中学校・高等学校国語（9枚のうち1）

（解答はすべて、解答题用紙に記入すること。なお、字数指定のある場合は句読点等の記号を一字と数えることとする。）

- 一 次いの文章は、およそ二十年前に書かれた伊藤徹いとうとつとむ「柳宗悦やなぎむねよし手としての人間」の一部である。これを読んで、あとの問いに答えなさい。
（本文には一部省略したところがある。）

著作権保護の観点から、本文を掲載いたしません。

令8 中学校・高等学校国語（9枚のうち2）

（解答はすべて、解答用紙に記入すること。なお、字数指定のある場合は句読点等の記号を一字と数えることとする。）

著作権保護の観点から、本文を掲載いたしません。

（注）※1 民芸運動——柳宗悦（一八八九—一九六一）らによって提唱された生活文化運動。
 ※2 メルクマール——目印、指標。

（伊藤徹『柳宗悦手としての人間』）

問一 傍線部②、⑤、⑦、⑨、⑩の片仮名は漢字に、漢字は平仮名に、それぞれ書き改めなさい。

問二 傍線部⑥「主体」の対義語を、漢字で書きなさい。

問三 傍線部③を説明した次の文の空欄に当てはまる漢字一字を書きなさい。

柳宗悦の時代と現代とに□底する考え方

問四 傍線部①の説明として最も適切なものを、次のア～オから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 機能主義は、民芸運動と科学技術文明との相克を経て生まれた新しい時代を形作るためのものであった。

イ 機能主義への流れは、近代化に従って民芸運動の限界を見いだした大衆が新たに作り出したものであった。

ウ 機能主義は、民芸運動と科学技術文明の優劣をめぐる激しい議論を巻き起こした対立の中心と呼べるものであった。

エ 機能主義を好む動きは、民芸運動による科学技術文明への対抗意識にとどまらない根源的なものであった。

オ 機能主義は、民芸運動の持つロマン主義的な要素を排除した現実社会における役割を重視したものであった。

問五 空欄A・Bに入ることばの組合せとして最も適切なものを、次のア～オから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア A たとえば B すなわち イ A ところで B そのうえ

ウ A 一方で B 他方で エ A なるほど B だが

オ A そして B なぜなら

問六 傍線部④を説明した次の文の空欄に入ることばを五字で、本文中から抜き出して書きなさい。

生命体の機能を測定し、脳死判定を行う際には、□が全く無視されてしまうということ。

問七 傍線部⑧が指すものとして適切でないものを、次のア～オから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 個性的でありたいという欲望 イ 他人と同一の欲望をもつことで安心すること

ウ 他人と異なるものをもとうとすること エ 同一のものを巡る抗争を回避すること

オ 平均性を嫌うこと

問八 傍線部⑪とあるが、「私」が「リアリティを感じない」理由を、三十五字以内で書きなさい。

問九 次に示すのは本文と同じ出典から引用した柳の主張である。これを読んで空欄X・Yに入ることばの組合せとして最も適切なものを、あとのア～オから一つ選んで、その符号を書きなさい。ただし、同じ記号には同じことばが入る。

柳は工芸にも美を認める。すなわち柳は、美術における「X」の表現に近代美の特質」を認めながらも、それとは異なる美が工芸に現われると主張する。柳はいう——「凡てを越えて根底となる工芸の本質は《用》である」。X 的独創的な美を重んじ実用から遊離していく美術とちがい、「工芸に於ては、用のみが美を産む」。工芸の美とは、工芸によって作り出されるY の道具がもつ美、用途を離れては失せてしまうような、もう一つ別な美のことである。

ア X 欲望 Y 日常 イ X 個性 Y 生活
 ウ X 時代 Y 自然 エ X 作家 Y 職人
 オ X 個人 Y 大量

令8 中学校・高等学校国語（9枚のうち3）

（解答はすべて、解答题紙に記入すること。なお、字数指定のある場合は句読点等の記号を一字と数えることとする。）

問十 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』、『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 国語編』を踏まえて、論説文に対して意見文を書く単元で、「書くこと」の領域の評価のあり方として、最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

- ア 書くことが苦手な生徒でもどこかで評価できるよう、できるだけ多くの場面で、あらゆる場面を評価するための記録をとる。
- イ 板書を正確に写すことができるかを判断基準として、ノートの取り方で評価をする。
- ウ 授業に入る前に、いつどのような方法で「書くこと」の評価の記録を取るのかについて、計画を立てる。
- エ 「知識・技能」についてのペーパーテストの結果を主たる材料として評価を行う。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

著作権保護の観点から、本文を掲載いたしません。

令8 中学校・高等学校国語（9枚のうち4）

（解答はすべて、解答用紙に記入すること。なお、字数指定のある場合は句読点等の記号を一字と数えることとする。）

著作権保護の観点から、本文を掲載いたしません。

(注) ※ 健児——さやかが通う夜間中学の同級生。

（高田郁『星の教室』）

問一 傍線部①、②、④、⑥、⑨の片仮名は漢字に、漢字は平仮名に、それぞれ書き改めなさい。

問二 傍線部⑦、⑧の本文中の意味として最も適切なものを、それぞれア～オから一つずつ選んで、その符号を書きなさい。

⑦

ア	理由がみつからないこと
イ	推理ができないこと
ウ	道理に合わないこと

工 理念が感じられないこと

才 理解を得られないこと

⑧ ア 納得した

イ 気持ちがおさまった

ウ 心中を推測した

工 決意した

才 強く憤った

傍線部③とあるが、この時の健児の気持ちを、解答欄のことばに続けて、三十字以内で書きなさい。

問四 傍線部⑤から⑪に至るさやか的心情の変化を表したものととして最も適切なものを、次のア～オから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア
称賛
↓
得心
↓
焦燥

イ 悲哀 ↓ 羞恥 ↓ 諦念

ウ
滑稽
↓
憂慮
↓
嘆息

工
压倒
↓
陶醉
↓
鼓舞

才憤慨
↓
感服
↓
卑下

令8 中学校・高等学校国語（9枚のうち5）

（解答はすべて、解答用紙に記入すること。なお、字数指定のある場合は句読点等の記号を一字と数えることとする。）

問五 傍線部⑩の説明として最も適切なものを、次のア～オから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 中学の頃、親方から掛けられた言葉に対して気取った台詞だと思いつつも、あたたかく受け入れてくれた親方にほれ込んでしまった当時を思い出し、親方の元で働けていることに喜びを感じている。

イ 中学の頃に大喧嘩をして人生を踏み外すところだったことを思い出すのは情けないが、そのことがあったからこそ親方と出会い、自分が変わることができたと親方との出会いに感謝している。

ウ 中学の頃、若気の至りで荒れた生活を送っていたことは後悔するばかりだが、今は社会人として立派に働くことができるようになったと自分の成長を振り返り誇らしく思っている。

エ 中学の頃は勢いがあり、生き生きと過ごすことができていたが、今は我慢ばかりの弱い立場となってしまうたことを思い、惨めな毎日を振り返り自分の境遇を憐れんでいる。

オ 中学の頃に親方と出会ったことで将来の夢を描くことができたことは嬉しいが、中学卒業すらできていないことを思い出し、夢の実現にはほど遠いと落胆している。

問六 傍線部⑫とあるが、この時の健児の心情として最も適切なものを、次のア～オから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア さやかが気落ちするときのいつもの悪い傾向に陥ってしまったことにどこかしさを感じている。

イ 早く器を本店に運ばなければならないのに道が混み始めたので、駅までさやかを送って来たことを後悔している。

ウ さやかは黙っているが、自分の過去のことを知って、軽蔑しているのではないかと気になっている。

エ さやかに自分の夢を話して嬉しかったが、さよかの夢を聞くことができなかったことを申し訳なく思っている。

オ さやか自身に自分の夢を思い出させるため、どうやって励ませばよいだろうかと思索している。

問七 傍線部a～eの表現に関する説明として適切なものを、次のア～オから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 傍線部aは、子どもに使うような「口にチャック」というセリフを用いることで、深刻な言い方でなかったことを表現している。

イ 傍線部bは、「すいすい」と軽やかなさまを表す擬態語を使うことで、車内の重々しい雰囲気との対照的な様子を表現している。

ウ 傍線部cは、「息を吐き出せなくなり」とありえないことを描写することで、人生を揺るがすほどの衝撃であることを表している。

エ 傍線部dは、「健児」のことを「料理人見習い」とすることで、この場面では将来の夢を持つ先輩という役目を担っていることを表している。

オ 傍線部eは、「見える」ではなく「目に映る」とすることで、さよかの心が他にとらわれていて、意識的にスアンを見ることができていないことを表現している。

問八 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』、『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 国語編』を踏まえて、小説の学習指導のあり方として、適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 作品を読み深めることにねらいを置いた授業内で、感想を書かせる活動を通して「書くこと」の領域を指導する。

イ 作品を読むことで物語の展開の仕方を捉え、考えたことなどを伝え合う活動を通して、「読むこと」の領域を指導する。

ウ 国語科の学習が読書活動に結び付くよう、学校図書館などを利用し、様々な本などから情報を得て活用するよう指導する。

エ 自分の考えを発表する時、分かりやすく伝わるように、ICT機器等を使って資料作成をするよう指導する。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

折しも、宮の三位の中將と聞こゆる人おはしけり。花の色、月の光にも、この世は憂きものとのみ思ひ給ひて、夜もすがらいつもあくがれ給ひて、よしある所は入りて、垣間見給へるに、思はず箏の琴をゆるらかに盤渉調に弾き鳴らすを聞き給ふに、おしなべての爪音にはあらず。いかなる人なるらんとゆかしくて、築地の崩れより入り給ひて、いづれとなくむつかしき蓬が露うち払ひて見給ふにも、我が通ひ路の関守は据ゑぬにやと心やすく、ものの隅に立ち隠れて見給へば、端近くながめけるとおぼえて、御簾なども少し巻き上げて、いとをかしげなる若き人、二三人ばかり見ゆるに、いづれか琴弾く人と見給へども、この中には見えで奥の方に聞こゆ。

月隈なく差し入りて、障りなく見ゆるに、わづかに十四五にやと見えて、紛ふべくもなくいつくしげにて、月にもてはやされたる髪のかかり、手つきなどは、世の常の人とは見えず。顔は定かに見えねども、空をつくづくと目守りて、いみじうもの思へるさまなり。らうたげに、気高く見えたり。誰ばかりかこれほどならんと、あやなく御心もとどまりて、出で給ふ心地もし給はねば、塚に車を入れる例にやとまでおぼえ給ひて、なほ立ち聞き給へば、御前なる人々とあはれなる物語して、故大納言殿の御ことなど語り出でて、「おはしまさしかば、かく心細きさまならましや」「今はいかなる方にも定まり給ひなんものを」などとうち泣きなどするに、いとどもよほされて、姫君もいみじくながめ入りて、

ア もの思ふ涙に空はかきくれて我から月もおぼろにぞ見る

と、うちながむともなきさま、げに類あらじと見えたり。また、十七八ばかりにやと見えて、これもよしあるさまにて、

Ｂ さやかにて月のやどれる池水をくもるとや見ん秋の夜なれば

と、うちながめたるも、らうたげなり。

（『あきざり』）

令8 中学校・高等学校国語（9枚のうち6）

（解答はすべて、解答用紙に記入すること。なお、字数指定のある場合は句読点等の記号を一字と数えることとする。）

（注）※1 盤渉調——雅楽の六調子の一つ。盤渉の音を主音とする調子。

※2 若き人——ここでは姫君に仕える女房のこと。

※3 大納言——姫君の父。

問一 二重傍線部a、bについて、同じ意味のものを、それぞれア～エから一つずつ選んで、その符号を書きなさい。

a			b		
ア	道知れる人もなくて、惑ひ行きけり。	ア	山の端逃げて入れずもあらなむ	イ	名をば、さかきの造となむ言ひける。
イ	冬はいかなる所にも住まる。	ウ	早く往なむとて、	エ	盛りにならば、容貌も限りなくよく、髪もいみじく長くなりなむ。
ウ	紫だちたる雲の、細くたなびきたる。				
エ	さらに遊びの興なかるべし。				

問二 波線部Xの動詞を、例にならつて文法的に説明しなさい。

〔例〕力行四段活用動詞「聞く」の終止形

問三 傍線部①、②の意味として最も適切なものを、それぞれア～エから一つずつ選んで、その符号を書きなさい。

①	ア 心を痛め	イ さまよい歩き	ウ もてあまし	エ うんざりし
②	ア 月並み	イ 正式	ウ 評判	エ 偶然

問四 傍線部③は、「人知れぬわが通ひ路の関守は宵々ごとくにうちも寝ななん」（『伊勢物語』）という古歌を踏まえた表現である。この部分における三位の中将の認識を説明したものととして最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア かつて古人が関守の存在をうとましく感じていたのと同様に、自分も関守のことがうとましくて仕方がないという認識。

イ かつて古人が関守の存在をうとましく感じていたのとは違って、自分には気に掛ける関守がないという認識。

ウ かつて古人が関守の存在を気にする必要もなかったのと同様に、自分にも気に掛ける関守がないという認識。

エ かつて古人が関守の存在を気にする必要もなかったのとは違って、自分は関守のことがうとましくて仕方がないという認識。

問五 傍線部④を、主語を補ってわかりやすく現代語訳しなさい。

問六 傍線部⑤とあるが、三位の中将がこのような状態になったのはなぜか。三十字以内で具体的に書きなさい。

問七 傍線部⑥とあるが、女房たちの語った具体的内容として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 姫君が心細そうに過ごしているために、父君が成仏できず姫君の結婚の話もすまないということ。

イ 姫君が安心できるように父君の話をすることで、姫君の結婚も間もなく決まるだろうということ。

ウ 父君が不在で心ざびしい境遇ではあるけれど、姫君にはしっかりとした結婚相手がいるということ。

エ 父君が存命でないことで、姫君がいまだに結婚もできない心細い境遇にあるということ。

問八 A・Bの和歌の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア Aは姫君が女房たちを氣遣つて詠じた歌で、女房たちにまで悲しい思いをさせていることを詫げる気持ち을伝えているのに対し、

Bはある女房が姫君に続いて詠じた歌で、せっかくの秋の夜に、月をほんやりとしか見ることができない境遇を嘆いている。

イ Aは姫君が女房たちの様目に触発されて詠じた歌で、涙で月がかすむほど、もの思いが深いという現在の心境を吐露しているのに対し、

Bはある女房がとつさに姫君に返した歌で、秋の名月を楽しむよう姫君を氣遣い、それとなく励ましている。

ウ Aは姫君が父君に思いを馳せて詠じた歌で、涙で月がかすむほどに思慕の念が募っていることを訴えているのに対し、Bはある女

房が大納言殿の願いを代弁した歌で、池に映る月のように姫君には穏やかに過ごしてほしいと伝えている。

エ Aは姫君が女房たちへの思いを込めた歌で、もの思いの涙が尽きたことで今は静かな心境にあることを伝えているのに対し、Bは

ある女房が姫君に返した歌で、くもりが晴れた名月を池の端で鑑賞しようと呼びかけている。

問九 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』、『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 国語編』を踏まえて、古典の学習指導のあり方として適切でないものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 作品や文章の成立した背景などに注意して古典を読むことを通して、古典の世界に親しむよう指導する。

イ 古典の作品や文章を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ることとで古典に親しむことができるよう指導する。

ウ 文語文法など文語のきまりを理解して、原文を逐語的に現代語訳にすることで、生涯にわたって古典に親しむことができるよう指導する。

エ 音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文の音読を通して、古典特有のリズムを味わうことで、古典の世界に親しむよう指導する。

令8 中学校・高等学校国語（9枚のうち7）

（解答はすべて、解答用紙に記入すること。なお、字数指定のある場合は句読点等の記号を一字と数えることとする。）

四 次の漢文は班婕妤について書かれたものである。これを読んで、あとの問いに答えなさい。（設問の都合上、一部訓点を省略したところがある。）

前漢成帝班婕妤越騎校尉況之女。帝游後庭、嘗欲同輦載。辞曰、「觀古图画、賢聖之君皆有二名臣在側。三代末主廼有嬖女。今欲同輦、輦得無近似之乎。」上善其言而止。太后聞之喜曰、「古有二樊姬。今有二班婕妤。」後趙飛燕譖告「許皇后与婕妤挾媚道、祝詛後宮、詈及主上。」考問婕妤。对曰、「妾聞、『死生有命、富貴在天。』修正尚未蒙福、為邪欲以何望。使鬼神有知、不受不臣之愆。如其無知、愆之何益。故不為也。」上善其对、憐閔之、賜黄金百斤。

（『蒙求』）

- （注）※1 越騎校尉——越国の帰順兵を統率する役職。 ※2 後庭——後宮。 ※3 輦——人が引く車。特に天子の車。
- ※4 三代末主——夏・殷・周の王朝末期の王。 ※5 嬖女——お気に入りの女性。愛妾。 ※6 太后——成帝の実母。
- ※7 樊姬——春秋時代の楚の荘王の妃。荘王が狩りを好んだのを諫めるなど、内助の功があった。
- ※8 趙飛燕——成帝の後宮に入り、後に皇后となった女性。 ※9 譖告——中傷する。 ※10 許皇后——成帝の妃。
- ※11 挾——頼りにする。力を借りる。 ※12 媚道——祈禱やまじないにより愛を得ようとする術。
- ※13 祝詛——呪詛する。 ※14 主上——君主。ここでは成帝を指す。

- 問一 二重傍線部a、cの読みを、送り仮名も含めて現代仮名遣いの平仮名でそれぞれ書きなさい。
- 問二 二重傍線部bの「辞」と同じ意味の「辞」を用いた熟語を、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。
- ア 固辞 イ 辞任 ウ 式辞 エ 辞世
- 問三 傍線部Aを書き下し文にしなさい。なお、「蒙」の終止形は「蒙る」である。
- 問四 傍線部Bについて、解答欄に訓点を施しなさい。
- 問五 傍線部①とあるが、何に「近似する」か。最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。
- ア 賢聖之君 イ 名臣 ウ 三代末主 エ 嬖女
- 問六 傍線部②の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。
- ア 太后は、班婕妤が成帝を厳しく諫めたこと聞き、君主に諫言をした樊姬に匹敵する力を持っていると感じ、驚嘆している。
- イ 太后は、成帝の命を班婕妤が退けたと知り、樊姬のようにいずれは成帝の存在を脅かすに違いないと察し、狼狽している。
- ウ 太后は、かつて樊姬が君主を諫めたのと同じように、班婕妤が成帝の行動を諫める役割を担ってくれろと考え、期待している。
- エ 太后は、成帝が班婕妤の訴えは全て受け入れるほど寵愛が深いと聞き、樊姬のような良い妃が見つかったと感じて、安堵している。

令8 中学校・高等学校国語（9枚のうち8）

（解答はすべて、解答用紙に記入すること。なお、字数指定のある場合は句読点等の記号を一字と数えることとする。）

問七 傍線部③の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 裕福になれるかどうかは天が決めることなので期待はしていないが、自分を死罪にするという命令が下っている今となつては、成帝の愚行を諫めるという希望さえ叶わなくなつてしまったということ。

イ 人生の出来事は全て天が決めるものだと理解しているが、善い行いを心掛けているにも関わらず裕福になれないのであれば、生きる望みを失つて悪事を働く人がいるのもやむを得ないということ。

ウ 生死や富貴が当人の運命であるように、正しい行いをすることも幸福になることも運命であるので、たとえ成帝の寵愛を受けるために道を外れた行いをしてでも自分の責任ではないということ。

エ 人の生死や富貴でさえも天命によつて決まるのであり、正しい道を修めていても幸福になれるかどうかは天命にかかっているのだから、悪事を働いてまで成帝の寵愛を得ようなどとは考えないということ。

問八 本文の内容として、適切でないものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 成帝は、後宮に出向いた際に、班婕妤を寵愛するあまり、車と一緒に乗ることを望んだ。

イ 趙飛燕は、班婕妤が成帝や後宮の人々を呪い殺そうとしてしていると許皇后に申告した。

ウ 班婕妤は、取り調べに対し、成帝を呪うようなことは一切していないと主張した。

エ 成帝は、あらぬ疑いを掛けられた班婕妤のことを憐れみ、黄金を与えた。

令8 中学校・高等学校国語解答用紙 (9枚のうち9)

総計		

一					
問一	②		ねた	⑦	
問二			問三		⑤
問四			問五		⑨
問七			問六		⑩
問八					
問九			問十		

一		

二				
問一	①		う	④
問二	⑦			⑥
問三		自分が		⑨
問四			問六	
問七			問八	
問五				

二		

三					
問一	a		行		b
問二			活用動詞「	」の	形
問三	①		②	問四	
問五					
問六				問九	
問七			問八		

三		

四					
問一	a		c		問二
問三					
問四	使鬼神有知、				
問五			問六		
問七			問八		

四		

令8 中学校・高等学校国語模範解答 (9枚のうち9)

総計		
200		

問題

問九	イ		問十		ウ		の だ か ら 。 <
----	---	--	----	--	---	--	--

一	60	

問一	①	ばせい		②	あらがう		④	利く		⑥	口頭		⑨	一喝				
問二	⑦	ウ		⑧	エ		自分が同僚に怒鳴られている姿を同級生に見られて恥ずかしかった。		問二		ウ		問三		自分が同僚に怒鳴られている姿を同級生に見られて恥ずかしかった。			
問三	ウ		問四		オ				問五		ア		問六		ア			
問四	ウ		問五		イ				問六		ア		問七		ウ			
問七	ウ		問八		ア		問九		ア		問十		ア		問十一			

二	55	

三									
問一	a		ア		b		エ		
問二	ヤ行 下二段		活用動詞「見ゆ」の連用形						
問三	①	イ		②	ア		問四		イ
問五	中将はどの人が琴を弾く人なのだろうかと思っ てご覧になるけれど、								
問六	月明かりで見えた姫君の美しい姿に心を 引きつけられたから。								
問七	エ		問八		イ		問九		ウ

三	50	

四						
問一	a	かつて	c	もし	問二	ア
問三	未だ福を蒙らず					
問四	使 ^メ バ ^バ 二 鬼 神 ^ヲ シ ^シ テ ^テ 有 ^ラ レ 知 ^ル コ ^コ ト 、					
問五	ウ		問六		ウ	
問七	エ	問八	イ			

四	35	